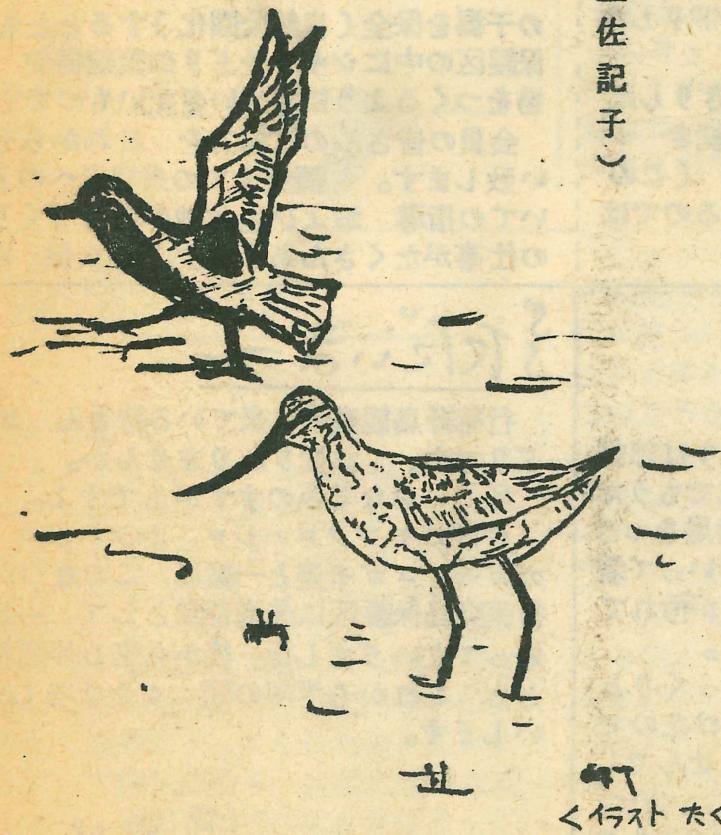


すずが毛通信 21

夏過ぎて
死ぬるさだめの銀の蟬
そのつめたさに
秋の夕暮

(海宝佐記子)



「
ア
イ
<イラスト 大くぼ>

はよじ

今年も毎年春、秋に行われているシギチドリ類の全国一斉調査が9月15日に行なわれました。私は江東区地先にある13号埋立地へドロ島（中防内埋立地）で調査をしました。

ヘドロ島ではタカブシギ、コチドリなど9種60羽のシギチドリが観察されました（なおヘドロ島ではニサであるエニ等を求めてか千五百羽のムクドリが観察された）

しかし13号埋立地では一羽のシギチドリも観察できなかった。この原因として当日の潮の状態が悪く昼頃に干潟が現われないこと、ハゼ釣りやウンドサーフィンなどによって干潟や岸壁に人で専有される鳥のエサ場休息場がないこと、13号地の2では調査の場所が立入禁止であったことなどの条件が悪かったことが考えられる。けれども他の場所でも少ないので、谷津干潟で調査を続いている石川勉さんの話でも例年の3分の1位のシギチドリしか見られないということです。

調査全体の結果を見なければはっきりしたこととはいませんがやはり去年に続きシギチドリが減っているようです。（このままではシギチドリがいなくなるのではないか？）

鳥のかしまむかし

○雀とキツツキ

むかしむかしのこと雀とキツツキは姉妹であったということです。親が病氣でもうだめだと知らせのあった時雀はお歯黒をつけている途中でしたがすぐに飛んでいって看病をしましたので今でもホッペタが汚れてクチバシの上半分が白っぽいのです。

キツツキは親に会うのだからとゆっくりと紅やおしろいでおめかしをして出かけたので大事な親の死目に会うことができませんでした。だから雀は美しくないけれどいつも人間の住む所に住んで人間の食べるものを好きだけ食べることができるのにキツツキは姿は美しくても朝早くから森の中を飛びまわりガソゴソと木の皮をたたいても一日にやっと三四匹の虫しか食べることができず夜になると木の穴に入ってクチバシが痛い痛いと泣くのだそうです。

シギチドリが減ったー

日本で繁殖し秋のシギチドリのうちの相当数をしめるシロチドリの数が非常に減少しているようです。最大の繁殖地である湾岸の埋立地の変化（砂地の草原化、道路化、住宅化が原因か）

またキアシシギやメダイチドリなども少ないことは日本にやってくるシギチドリの主な繁殖地であるシベリア地方の気象異常などのなんらかの原因も考えられる。

2年連続の減少をふまえ渡りの途中で立ちよる干潟や湿地の破壊が進む現状をなんとか変えたいものです。

北海道の風連湖（春国たい）の道路計画、羽田沖干潟への飛行場移転計画、東京湾横断橋（小びつ川河口干潟）等々の計画があり自然の解体がこれからも続きます。

日本での繁殖地の確保もいそがねばなりません。埋立地に広大な野鳥保護区をつくるために残されている妙典の湿地や放水路の干潟を保全（自然公園化）するとともに保護区の中にシギチドリの繁殖場やエサ場をつくるようにしていかないものです。

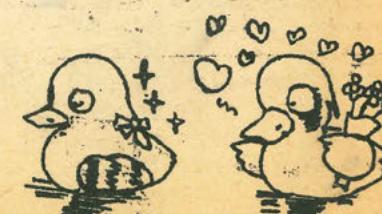
会員の皆さんのご協力をこれからもお願い致します。観察舎での来場者への鳥についての指導、および生息地の環境づくりなどの仕事がたくさんあります。（田久保晴孝）

さくらじま～

行徳野鳥観察舎に来ている皆さんお久しぶりです。お変わりありませんか。

私？おなじみのすずがもですよ。

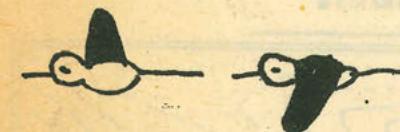
仲間のキンクロハジロ、ホンハジロ、オナガガモ、コガモ達と一緒にこのなつかしい行徳野鳥保護区に先進部隊として一足先に帰ってまいりました。後から来る仲間達ともどもこれから半年の間またようしくお願ひします。



さえすり

「セイタカシギの幼鳥です」の声にドキドキしながら双眼鏡をのぞくとあの長い足で歩いているのが見えた。けれどももう皆プロミナで見終った頃でもっとはっきりと見たいと思ったけれどまあまたいつか見られるでしょうと諦め次のエリマキシギを見る。夏羽を見たいものだと思う。それにしてもあの首の「エリマキ」は「わた」みたいにフワフワしているのかしらなどと思ってみる。そして次に「チョーチョー」のアオアシシギをしっかりと確認できたのはうれしかった。そしてそして次はものすごい倍率の望遠鏡でタンギを見せていた目もとまではっきりと見えて思わず「こんなに可愛いいとは思わなかつ」と叫んでしまったのです。

あの時のタンギのつぶらなひとみに魅せられてしまった。越渡美智子



観察舎この頃

○こわい青潮

9月に入っても続いていた残暑は13日から吹きはじめた北風とともに涼しくなってはっとしたのも束の間15日に谷津干潟で青潮発生のニュース。（青潮とは気温の急な低下や強い北風にともなっておきる現象で水底にたまつた汚れた無酸素に近い海水が逆転して表層に上ってくるため海が広範囲にわたって酸欠になり生物に大きな被害が出ます）谷津干潟ではなぎにそっておびただしいハゼが少しでも酸素の濃い水を呼吸しようとして帶のように集まり近所の人がたま網でくったり鳥が食べたりしていたそうです。浦安でも魚が死にましたが行徳一帯では幸いにそれほどひどくならずにすみました。暑い盛りに涼しい日があるといつも心配になる青潮です。

○新浜探鳥会に初めて参加。大井でコチドリ、シロチドリ、セイタカシギくらいしか見たことのない人にとっては沢山出すぎて困りました。

この次見てもわからないかもしれませんのがキリアイもすできでした。コムクドリもかわいらしくて花の方はさくらでそしてほうきぎく、ひめむねよもぎ、おおあれちのぎくが教えていただきましたし（イシミカワ（突加カタカナ）後で調べてやっとわかりました）の青い実とヒヨドリシユウゴの赤い実もみつけました。放水路の方へ行ったら違ったものが見られるかもしれませんね。また幹事さんを手こずらせに行きましたのでよろしく。小山和子

○探鳥会も終りに近づいてちょっと残念になってしまった。パンは見つけたがオオバンが見つけられなかったからだ。

保ご区の出口のとびらの手前の池でこの探鳥会最後のバードウォッチングをしました。

そうがんきょううで鳥を探していると手前のおじさんが「オオバンだ」といった。そうがんきょううで見るとたしかにオオバンだったプロミナで見るとさらに大きくなっています。最後の最後にオオバンを見ることができたのでとてもうれしかった。

矢花俊博

○ナンバンギセル

保護区内の一角落が見つかりました。スキなどに寄生するウツボグサ科の植物で初秋に赤紫色のきせるのような花をつけます。幸い人が立入らない保護区の中なのでこの先も無事に育ってくれることと思います。

○マツムシ健在

一昨年の秋小びつ川からつれてこられた29匹のマツムシの子孫が今年もどうやら生きのびてチンチリン、チントロリンと可憐な声を聞かせています。昨年放したスズムシは残念ながら消えてしまったようです。

一昨年あたりから行徳のここかしこ耳にするようになったオマツムシ（樹上でリーリーーと鳴く）が今年は観察舎入口近くのニセアカシア林でも聞かれました。一方千葉県下ではこのあたりが初認地となっていたタイワンカンタンは今年は全く聞かれませんでした。

行事案内

誰でも自由に参加できます。

○新浜自然観察会

10月9日 11月13日 12月11日

集合：東西線行徳駅前 午前10時

解散：野鳥観察舎午後2時半頃

わずかに残されている妙典地区の湿地や保護区でカモ サギ カモメ バンなどの水鳥を中心に動植物の観察をします。

(午前中は江戸川放水路妙典の観察をして午後は保護区の中に入れていただく予定)

参加費： (小中学生は無料)

お弁当 水筒 雨具 ボウシをおわすれなら

○定例 園内自然観察会 (観察舎主催)

10/2, 10/6, 1/6, 1/20, 1/4,

集合：野鳥観察舎前午後1時半

解散：" " 午後4時頃

園内の観察路を 約3.5km歩きます。歩きやすい服装 はきものでどうぞ。

○夕暮探鳥会

10月23日 午後4時半～

11月27日 午後4時～

担当 蓬尾

風が涼しくなってきました。そんな暮。そんな夕暮時ねぐらに帰る鳥たちを見に行きませんか。寒くないよう長そで 上着などを用意してください。

○マスコット作り講習会

10月15日 午後2時4時

10月22日 " "

あなたの手で かわいらしい小鳥のマスコットを作つてみませんか 形は少々悪くても

自分で作ったマスコットは とてもかわいらしいものです。

一 会員の皆さんへ お知らせ

毎日元気でお過しのことと思います。

このたび 会員名簿を作ることになりました。

その為に 古い名簿を整理していますと 会費切れの方が かなりいらっしゃいました。

そこで 今回その旨をお知らせするとともに振替用紙を同封させていただきました 12月

までに振込のない場合は 繼続の意思がないと見なし 除籍させていただきます。

以降も会費切れの方には その旨をお知らせしますのでよろしく お願いします。

なお会員名簿は 4月発行をめどに現在整理中です。

一 事務局より

今年度の会費を 納めて下さい。一般会員1000円 賛助会員2000円以上 ジュニア会員(小中高校生)500円です。 観察舎でお金をあづかってもらえます。

その他 絵はがき シール 鳥のマスコット 鳥の図鑑なども販売しています。

一 経集後(荒)記一 オナガカガモ、コガモ、スズガモ、保護区で冬をすごすカモ達

がどんどんやって来ています。で水につれて人かふえてきました。ご協力をおねがいします。(ほろたか)

今回もようやく遊行できました。増やージしたい気持ちはあるのですが…内容を

どうするかといふと…全くアイディアが浮かびません。知恵をかけて下さい。途

すずがも通信

NO. 21

1983年10月1日発行

振替仙台 6129

年会費 1000円

発行人 谷 栄

事務局 篠 木 有

編集人 田久保 雄

新 妻 途夫

行徳野鳥観察舎

V27-0市川市福栄4-22-11 Tel. 0473(97) 9046